

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M232W401	リハビリテーション看護 (Rehabilitation Nursing)	専門教育科目 統合分野

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	1	4	後	木・3,4	三重野英子・小野光美・阿部世史美 内線：5093 E-mail：eikomi@

【授業の概要・到達目標】

本科目では、共生社会<地域リハビリテーション>の実現にむけ、看護が取り組むべき課題を検討することを通して、リハビリテーション看護の概念に対する理解を深める。また、学生が培ってきた看護観、人間観をさらに深め、視野を広げる機会とする。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 自己の障害者観、リハビリテーション看護観を洞察し述べる。							○
2. リハビリテーション看護の概念を探究し説明する。 1) リハビリテーション看護の実践基盤となる概念を整理する。 2) リハビリテーションチームメンバーである理学療法士が行うアセスメントや治療技術を学び、保健師・看護師との協働・連携のあり方を検討し述べる。							○
3. 身体障害がある当事者に直接かかわり、日常の暮らしを知ることを通して、共生社会の実現に向けた看護の課題を述べる。					○	○	

【授業の内容】

1, 2	リハビリテーション看護の目的、対象、方法	
3, 4	理学療法士の専門性・看護との協働連携	
5, 6	聴覚障害者との手話言語によるコミュニケーション	若年性認知症の人とのソフトボール試合
7, 8	パラスポーツ (車いすバスケットボール) 体験	(任意)

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	事前課題、課題レポート、実技	<ul style="list-style-type: none"> 事前課題 (個人ワーク) → グループ検討・発表 → 講義の順に授業を行う。 毎回の授業終了後、課題レポートに取り組み、自身の学びを深める。 学生個々が考え、意見を述べる機会を頻繁に設ける。
B：意見の表現・交換	○	発表、討議	
C：応用志向			
D：知識の活用・創造	○	パラスポーツ、聴覚障害者との手話体験	

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	・指定された事前課題に個人で取り組む。この時、文献検索・レビュー、既習の授業科目の配布資料や教科書等により、これまでの学びをベースに課題に取り組む(12h)。
事後学修	・指定されたテーマにそってレポートを作成する(12h)。

【教科書】なし

【参考書】・酒井郁子 (2005) : 超リハ学—看護援助論からのアプローチ (第1版)、文光堂、東京。
・初回講義時に配布する「リハビリテーション看護 授業概要」を参照

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2
毎回の授業後の課題レポート	80%	○	○
授業の参加態度	20%	○	○

【注意事項】 課題レポートの提出をもって出席状況を確認する。

【備考】 「理学療法士の専門性」非常勤講師 原田禎二氏 (特別養護老人ホーム若葉苑 施設長)
大学の感染対策方針に基づき、授業内容を変更する場合がある。

担当教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験	三重野（看護師）、小野・阿部（看護師、保健師）	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者	理学療法士、手話通訳士、パラアスリート（車いすツインバスケットボール）、若年性認知症の当事者（認知症ピアサポーター、希望大使を含む）と支援者（介護支援専門員、介護職、看護師）	
実務経験をいかした教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師としての活動経験をいかし、事例を教材に講義・演習を行う。 ・理学療法士の病院や介護施設等での治療経験をいかし、理学療法士の専門性を教授する。 ・手話通訳士の実務経験をいかし、聴覚障害者との手話を通じたコミュニケーションのあり方を教授する。 ・車いすツインバスケットボール選手の試合・練習経験をもとに、パラスポーツの意義や楽しさを教授する。 ・若年性認知症の当事者（認知症ピアサポーター、希望大使を含む）の地域活動経験や支援者（介護支援専門員、介護職、看護師）の実務経験をもとに、認知症の人の理解を深める機会を提供する。 	
授業形態	面接授業	